

# 東海コンファレンス 2025 in 名古屋

～Chemical Biology の目で生命をみる・操作する～



ケミカルバイオロジーは、化学の視点から生命現象を読み解き、操作することを目指す学際的な研究分野である。近年では、分子設計、合成、機能評価といった化学の技術が、生体分子のふるまいを明らかにし、さらにはその機能を自在に操る手段として活用されている。目的に応じて精密に設計された化合物や生体分子が、生命現象の可視化・制御を可能にし、従来の生物学的手法では得られなかった新たな知見の獲得に寄与している。

本セッションでは、本分野を牽引する4名の気鋭の研究者を講師として迎え、それぞれの専門的立場から、最新の研究成果とともに、今後の展望や課題について議論を深める機会としたい。

主 催：日本化学会 東海支部

共催：名古屋大学 卓越大学院プログラム・トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム

日 時：令和8年1月23日（金）13:00～16:40

場 所：名古屋大学 東山キャンパス EI創発工学館 FUJIホール（名古屋市千種区不老町）

（地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ）

<https://www.nagoya-u.ac.jp/contact/directions.html>

## プログラム

13:00 - 13:05 開会の挨拶 森田 靖（日本化学会 東海支部長）

13:10 - 14:00 「鉄・ヘムを見る、操作する分子の開発」

平山 祐（岐阜薬科大学）

14:00 - 14:50 「タンパク質局在操作のケミカルバイオロジー」

築地 真也（名古屋工業大学）

14:50 - 15:00 -- 休憩 --

15:00 - 15:50 「環境応答性プローブでみる細胞内脂質不均一性」

多喜 正泰（岐阜大学）

15:50 - 16:40 「脳機能を司る神経伝達物質受容体を見る・制御するための化学的アプローチ」

清中 茂樹（名古屋大学）

16:40 閉会

参 加 費：無料

参加申込方法：以下の URL から参加登録

<https://forms.gle/ruHVqMK59A5ZLT5N6>

※申込時にご記入頂きました情報は個人情報保護法のもとに適切に管理し、  
本目的以外には転用いたしません。

問合せ先： 〒464-8603

名古屋大学大学院工学研究科

担当： 村上裕、林剛介

E-mail: murah@chembio.nagoya-u.ac.jp, hayashi@chembio.nagoya-u.ac.jp